

woman たらす



コーディネート

写真で手にしているのは、仙台筆筒の職人が作った木のバッグです。ハンドルの長さや開き具合、金具など細かい部分まで工夫してもらいました。シンプルなデザインですが、木ならではの存在感があり、意外によく見られている女性の手元を美し

小物でバランス良く

く見せます。格の高い着物以外なら添えるバッグの工夫次第でどんな着物にも合い、コーディネートの幅を広げてくれます。

着物を楽しむ上で重要な役割を果たすのが、バッグや帯揚げ、アクセサリーなどの小物です。装いのアクセントになったり、合わないと思っていた着物と帯をつなげてくれたり。このコーディネートでは、袖口からのぞく襦袢は水色、帯揚げを着物と帯の中間色とし、帯締めは白とグレーを選んで着物になじませました。着物の色や質感、お化粧品も含め、全身のバランスを考えながらアートのように装うことが着物のコーディネートの秘訣であり、楽しさでもあります。

着物は洋服ほど活動的ではありませんが、この不自由さが美

しさをもたらします。しぐさが丁寧になり、背筋もしゃんとします。年配の方の美しい着物姿を拝見すると、やはり日本人にふさわしい装いなのだつくづく思います。着物は形が決まっているからこそ、お召しになる方の個性や人となりもコーディネートに大きな力をもたらすのではないのでしょうか。

織物や布を作る東北の各産地では、今も高い技術を持つ一方、需要減やそれに伴う後継者不足の悩みも抱えています。東北、ひいては日本の着物文化が絶えることのないよう、これからもその魅力を発信し続ける努力を重ねていきたいと思えます。

(田中陽子・「暮らしのクラフトゆずりは」店主)

〈終わり〉



綾織りの着物に小紋柄の帯、帯揚げ、帯締め、木のバッグ。いずれも東北の職人が作った逸品